



2022年度 教育課程特例校の教育課程実施状況についての 児童・保護者・学校の評価（2022年度学校評価より抜粋）

○児童学校評価アンケート集計結果と考察

総評

「5.とてもそう思う」「4.どちらかと言うとそう思う」を合わせ、9つ中8つの項目で8割以上の児童がポジティブな評価をしていました。来年度はすべての項目が8割以上となるよう、引き続き努力をして参りたいと存じます。

特に評価の高かった項目（95%以上）

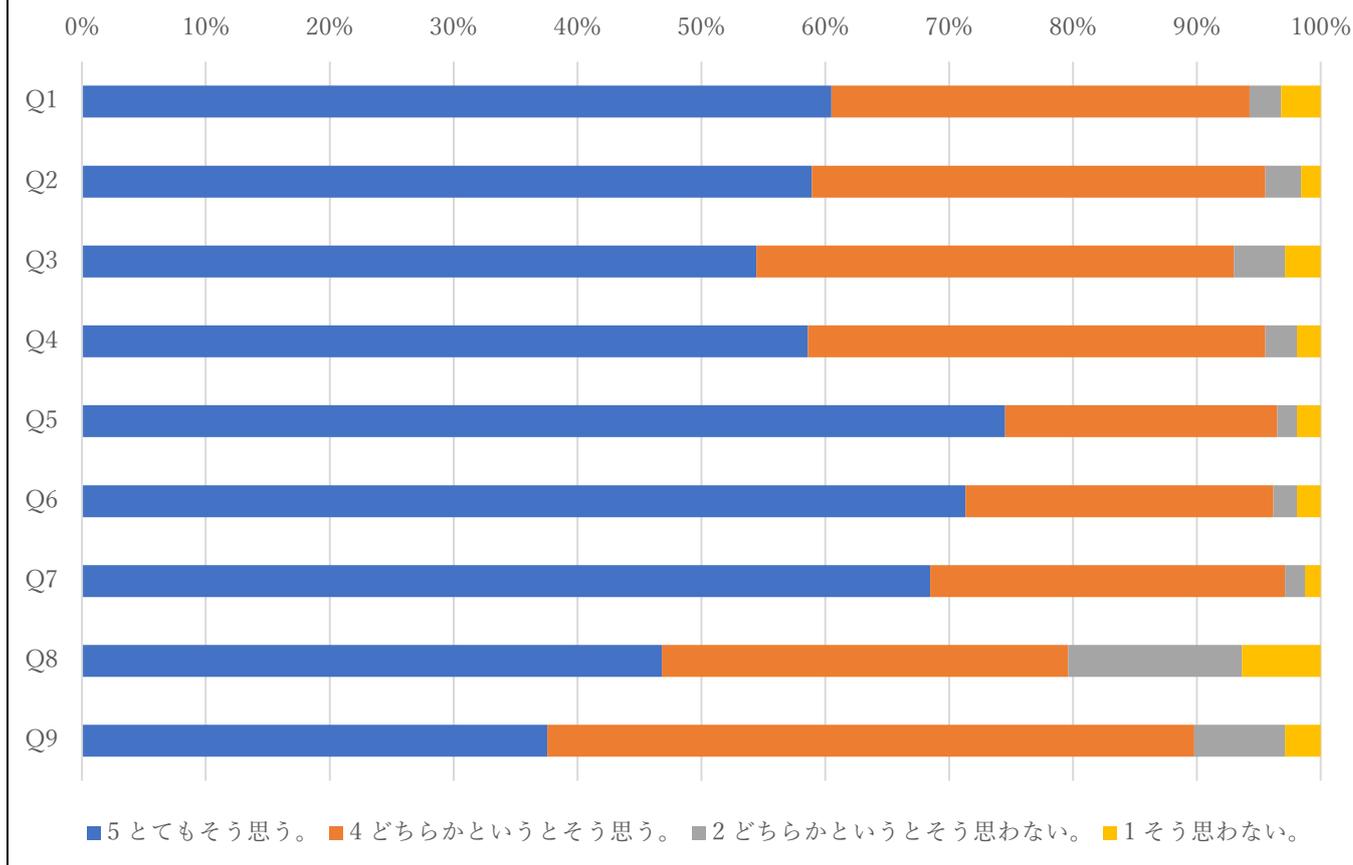
2022年度、95%以上だった項目は9つ中、4つでした。半数に近い項目で高い評価を得る結果となりました。

- ・「2. 探究以外の日本語でなされる授業中、学んでいることがよくわかり、学習することが楽しいですか。」の項目は96%の評価でした。こちらは Stand Alone でなされるにほんごや算数の単元、宗教、高学年では家庭科が含まれますが、児童が学んでいる内容を理解し、楽しんで取り組んでいることがわかりました。
- ・「4. どちらの言語でも、探究の授業中、学んでいることがよくわかり、学習することが楽しいですか。」の項目につきましては、96%の児童が「はい。」と回答しており、探究をベースとする学校として大変うれしく思っております。こちらも引き続き、児童が探究を楽しめるよう授業を工夫し、継続して努力して参ります。
- ・「5. 先生は、探究の授業を工夫しながら教えてくださいますか。」は97%、「6. 先生は、勉強をわかるまでしっかり教えてくださいますか。」は96%の評価でした。児童の Agency の力を高め、教科横断的な学びができるよう次年度も教員研修を行うなど、研鑽していきたく存じます。
- ・「7. 学びに一生懸命取り組んでいますか。」は97%の高評価で、児童が学びに真摯に取り組む様子が結果に反映されていました。

8割未満の項目

- ・「8. 図書館へ行き、本を借りて読書を楽しんだり、学びに必要な資料を借りたりしますか。」は今年度79%でした。昨年度82%から3ポイント下がっています。昨年はコロナ禍で、図書館に行くことができる時間が限られていたのですが、今年度はずいぶんと緩和され、休み時間も含め、図書館に行くことができる時間が増えました。コロナ禍で利用禁止になっていた、寝転んで本を読めるスペースも制限がなくなりましたので、児童が積極的に図書館を利用できるよう、授業時間での利用を増やしたり、声を掛けたりしたいと思います。

探究およびバイリンガル教育について



《参考：児童アンケート項目》

1. 授業中、学校での学びがよくわかり、学習することが楽しいですか。
2. 探究以外の日本語でなされる授業中、学んでいることがよくわかり、学習することが楽しいですか。
3. 探究以外の英語でなされる授業中、学んでいることがよくわかり、学習することが楽しいですか。
4. どちらの言語でも、探究の授業中、学んでいることがよくわかり、学習することが楽しいですか。
5. 先生は、探究の授業を工夫しながら教えてくれますか。
6. 先生は、勉強をわかるまでしっかり教えてくれますか。
7. 学びに一生懸命取り組んでいますか。
8. 図書館へ行き、本を借りて読書を楽しんだり、学びに必要な資料を借りたりしますか。
9. 10のラーナープロファイルを意識して活動できましたか。

○保護者様学校評価アンケート集計結果と考察

総評

全部の項目で「5.とてもそう思う」「4.どちらかと言うとそう思う」を合わせ、8割以上のポジティブな評価をいただきました。昨年度は2つの項目が8割に満たなかったのですが（両項目とも76%）、今年度はどちらも80%を超える結果となりました。しかしながら、来年度もすべての項目で8割以上の評価をいただけるよう、継続して努力をして参りたいと存じます。

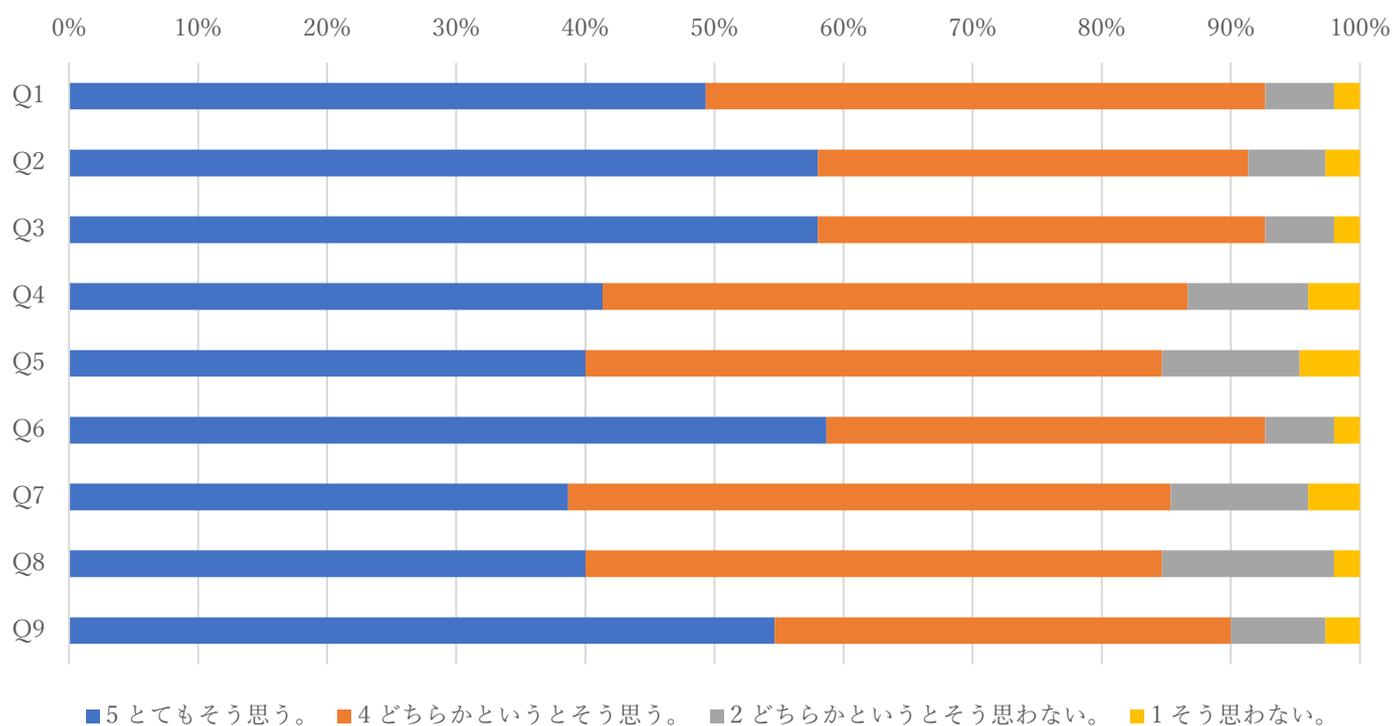
評価の高かった項目（80%以上）

- ・今回は上述の通り、すべての項目で80%以上の評価をいただきましたが、その中でも「5. 学校はバイリンガル校として、日英両言語の学習環境に力を入れ、言語バランスの取れた児童を育てている。」の項目が85%でした（昨年度82%）。昨年度よりも高い評価をいただいておりますが、引き続き言語学習環境を整える努力をして参りたいと存じます。改めまして2023年度にご連絡いたしますが、Pearson English Benchmark Young Learners Test (EBYL)により、児童の4技能(Listening, Speaking, Writing, Reading)を客観的に測定いたします。これをもとに、個々の力を伸ばしていく一助にしたいと考えております。
- ・「8. 学校は、保護者の思いをしっかりと受けとめ、子どもたちへの指導に生かしている。」につきましても今回85%でした（昨年度82%）。この項目も、昨年度よりも高い評価をいただいておりますが、保護者の皆様からのご連絡を真摯に受け止め、児童がより良い学校生活を送れるよう対応していきたいと存じます。

昨年度8割未満だった項目の今年度の評価について

- ・「7. 学校は、学年として身に着けるべき学習内容の定着に向け、丁寧な取り組みを行っている。」の項目が昨年は76%でしたが、今年度は85%の評価をいただきました。探究には既知知識が必要であり、基礎となる読み書きや計算も必須の能力ですので、児童にスパイラルで力を付けていくことができるよう、引き続き授業や宿題を工夫しながら進めてまいりたいと存じます。
- ・「9. 学校は授業参観日など、学校公開の日を適切に設け、保護者が学校の様子がよくわかるようにしている。」の項目も昨年度76%でしたが、今年は90%の評価をいただきました。2019年後半から始まりましたコロナ禍で、ご来校していただく機会が大幅に縮小しておりましたが、段階を経て元の学校生活に近づけることができるようになってまいりました。2023年度も、引き続き児童・保護者の皆様の安全を最優先しながら、児童の様子が保護者の皆様に伝わるよう工夫をして行きたいと思っております。

探究およびバイリンガル教育について



《参考：2022年度保護者様アンケート項目》

1. 学校は異なった考えやものごとの違いを受け容れる幅広い心・やわらかい心を児童に育んでいる。
2. 同志社国際学院初等部は、伸びやかで生き生きとした雰囲気を感じられる学校である。
3. 学校に行くのを、児童は心から楽しみにしている。
4. 学校は児童個々の様子をしっかりと見て、成長点や課題を伝えている。
5. 学校はバイリンガル校として、日英両言語の学習環境に力を入れ、言語バランスの取れた児童を育んでいる。
6. 学校は、探究を通して、教え方の工夫をしながら独自の指導法により、子どもたちの学習意欲を育み、追究する力、認識する力など、未来を生きる考える力(Agency)を身につけさせている。
7. 学校は、学年として身に着けるべき学習内容の定着に向け、丁寧な取り組みを行っている。
8. 学校は、保護者の思いをしっかりと受けとめ、子どもたちへの指導に生かしている。
9. 学校は授業参観日など、学校公開の日を適切に設け、保護者が学校の様子がよくわかるようにしている。